



基本理念「心のかよう医療を行い、信頼される病院」

かわせみ

R7 年度
秋号
VOL.66



◆市立ひらかた病院の初期研修システムについて

◆看護師特定行為研修修了者の活動紹介

◆救急救命士の気管挿管実習報告



ご挨拶

白石 由美（しらいし ゆみ）

副院長 兼 看護局長

大阪で55年ぶりに開催された万国博覧会は、日本国内はもとより世界中から沢山の人が押し寄せ、熱く盛り上がっています。その一方で生命に危険が及ぶほどの厳しい暑さの夏でもありました。医療機関の方々には、地域住民の皆様への熱中症対策のご指導や治療を賜ると共に、当院へのご支援をいただきありがとうございます。

さて、私も2023年8月に厚生労働省より「看護師特定行為研修指定研修機関」として認定を受け、2年間で4区分12行為の研修を開講しました。私自身も「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の研修を1年間受講し、この3月に第2期生として修了証をいただきました。現在、本格的に特定行為看護師の育成に取り組んでおり、看護師5年以上のキャリアデザインとして定着しつつあります。医療現場において、医師がより専門的な診療に集中できる体制を整えることを目的に、看護師の専門性と実践力の向上を図っています。特定行為看護師は、医師の包括的指示のもとで一定の医療行為を実施できる資格を持つ看護師であり、業務の効率化、診療の質向上、患者さんへの迅速な対応など、多方面での貢献が期待されています。

今後も地域医療を支える先生方と共に、特定行為看護師の実践事例や研修内容について情報交換の機会を設けさせていただければ、心より嬉しく存じます。当院も引き続き、地域医療・看護の発展に努めてまいりますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

そろそろ、秋の風が爽やかになることと存じます。地域の先生方のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

市立ひらかた病院の研修システムについて

“ 当院の初期研修システムについて ”

中島 伯(なかじま おさむ)
副院長 兼
研修管理委員会委員長

当院では初期研修医マッチングシステムに基づき、全国から優秀な初期研修医を採用しています。現在も1, 2年目合わせて6名の初期研修医が内科・外科・麻酔科・小児科・産婦人科などをローテーションし、研鑽を重ねています。1年目は前半6ヶ月が内科、後半6ヶ月が外科・麻酔科・救急科で、2年目は小児科・産婦人科・地域医療・精神科のほか、希望の科で研鑽を重ねます。

地域医療研修では、枚方市の中村記念クリニック、天の川病院、北海道の町立別海病院での研修のほか、交野女子学院と西日本成人矯正医療センター(旧・大阪医療刑務所)という矯正施設にも見学実習に行きます。北海道の別海町は、長年「菊と緑の会」という交流会を通じた枚方市の友好都市です。精神科は大阪精神医療センターで研修を受け、過去3名の研修医が精神科へ進みました。また希望者は福井大学病院ERでも研修できます。関係する医療機関の皆さまには深くお礼申し上げます。



学術活動について

第248回日本内科学会近畿地方会

若手奨励賞 最優秀賞 崎山 友里江 医師

研修医の学会発表も積極的に推進しています。

令和7年6月28日に開催された第248回日本内科学会近畿地方会では、若手奨励賞セッション(初期研修医部門)に採択された当院の研修医が最優秀賞を受賞しました。(同セッションに採択された20題の中から最優秀賞1題が選ばれました)。

演者の崎山友里江医師(2年目研修医)が、循環器内科の症例報告を、初々しく元気に発表し、座長からの質問にも頑張って答えていた姿が印象的でした。



質疑応答中の崎山医師



表彰状を手に崎山医師と筆者

Title 看護師特定行為研修修了者の活動紹介

白石 由美(しらいし ゆみ)
副院長 兼 看護局長

看護師特定行為研修修了者 2025年9月末現在

クリティカルケア特定認定看護師	3名
感染管理特定認定看護師	3名
緩和ケア特定認定看護師	1名
がん薬物療法看護認定看護師	1名
救急パッケージ	5名
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	5名
合計	18名

※創傷管理関連を含む計6名が現在受講中



✓「救急パッケージ」修了者の活動

HCUに5名、救急中央診療に2名を配属しています。早期にフィジカルアセスメントを行い、医師・他職種と連携しています。技術面では、動脈ラインの挿入や人工呼吸器の設定・調整を行い、日々の管理及びケアを実施しています。週一回、病棟ラウンドを行い、患者の急変予防に務めています。

✓「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」修了者の活動

6名を病棟・外来に配置しています。緊急入院の患者に対し、「栄養・脱水評価スクリーニングシート」を使用して早期から異常を把握、医師と協議し対応しています。低栄養が遷延している患者のケアはNST(栄養サポート)チームと連携しています。

✓「感染に係る薬剤投与関連」修了者の活動

感染症診療と感染対策に関する豊富な知識を生かし、病院内で熱発や咳嗽など感染症の発症を疑う患者さんの変化を素早く察知し、診断のために必要な諸検査の迅速な実施に貢献しています。さらに検査結果を評価して、より適切な抗菌薬使用につなげています。

Title 救急救命士の気管挿管実習報告

宮崎 信一郎(みやざき しんいちろう)
麻酔科 主任部長

市立ひらかた病院では、救急救命士を対象とした「気管挿管(きかんそうかん)」という手技の実習を実施しています。気管挿管とは、息ができなくなった方に、口から管を入れて呼吸を助ける大切な方法です。救急の現場では、呼吸状態が急激に悪化する患者さんに対し、迅速かつ確実な気道確保が求められ、気管挿管は生命を左右する重要な手技です。

今回、当院で手術を受ける患者さんで本実習にご同意いただいた150名に対して、麻酔科専門医の指導の下、5名の救急救命士が実習に取り組みました。実際の医療現場で経験を積むことで、救急救命士の自信や技術は大きく向上します。そしてその成果は、地域で暮らす皆さまの安心へとつながっていきます。

このような貴重な機会が実現できたのは、快くお受けくださった患者さんのおかげであり、ご理解とご協力があったからこそ、救急救命士はより実践的な学びを得ることができます。改めて本実習にご同意いただいた患者の皆さまには心より感謝申し上げます。

これからも市立ひらかた病院は、救急医療を支える人材の育成に力を入れ、市民の皆さまの健康と命を守るために取り組んでまいります。



市立ひらかた病院挿管実習を受けて

枚方寝屋川消防組合
警防部救急課係長 谷本 浩将さん

昨年は挿管実習で麻酔科医師をはじめ、手術室スタッフの皆様には大変お世話になりました。実習では丁寧な説明と熱い指導をしていただき、30症例程の実習でしたが、多くのことを学ばせていただきました。実習で得た経験により現場活動中には落ち着いて挿管が実施でき、実習がとても大切な時間だったのだと実感しております。これからも現場で活躍出来るよう日々精進してまいります。今後も実習生へのご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



退職医師のお知らせ(皮膚科)

6月末をもって退職いたしました。ありがとうございました。森川 和音

ミュージック・シェアリング



「訪問コンサート」が開催されました

2025年6月12日に枚方市出身で世界的ヴァイオリニストの五嶋みどりさんが、若手演奏家とカルテット（弦楽四重奏団）を結成され、市立ひらかた病院にられました。



五嶋 みどりさん



緩和ケア病棟演奏会風景



病室訪問風景



小児病棟演奏会風景

五嶋さんは「コンサートに足を運べない人にも本物の音楽を届けたい」との思いから、認定NPO法人ミュージック・シェアリングを立ち上げ、協力アーティストとともに全国の学校（特別支援学校・夜間中学を含む）や病院、高齢者施設を訪れてコンサートをする「訪問プログラム」などに取り組んでおられます。

今回は本プログラムの一環として行われたもので、当院の緩和ケア病棟、小児病棟、一般病棟における演奏会では、約100名の入院患者さんにモーツァルトのトルコ行進曲やベートヴェンの交響曲第5番など、6曲演奏いただきました。また緩和ケア病棟と産婦人科病棟の病室を訪問され本物の音楽を届けて下さいました！

五嶋みどりさん、協力アーティストの皆様、本当にありがとうございました。秋には他の演奏家による2回目の訪問コンサートの開催を予定しております。



地域医療連携懇談会報告

令和7年7月19日（土）に当院講堂にて地域医療連携懇談会を開催しました。

第1部

大阪医科薬科大学病院 感染管理認定看護師

川西 史子 氏による講演

「現場でいきる感染症対策」
ーインバウンド感染症対策もふまえてー



第2部

市立ひらかた病院 特命顧問・医療安全管理室 感染防止対策部門

浮村 聡 医師による講演

「感染症クイックリファレンス2025を共に学ぶ」
ーインバウンド感染症への対応ー



第1部は川西看護師から、インバウンド観光客の増加、大阪・関西万博の開催で懸念される感染症について、コロナ禍での経験を基に医療現場で役立つ感染症対策についてご講演いただきました。

第2部は浮村医師から、想定されるインバウンド感染症の診断や治療法について、架空の5症例を基にした実用的で簡潔な講演内容でした。参加数は46名で、枚方市の医療機関だけでなく近隣市の医療機関や行政機関、訪問看護ステーションなど幅広くご参加いただくことができました。